

すべての子どもに機会を *The wisest wish, greatest dream.*  
すべての子どもに夢を

特集1 心の中の未来像

特集2 支援が子どもたちに届くまで

## 「支援する」のではなく 「支え合う」

2016年度もCFCの活動を様々な形で支えていただき、心より感謝いたします。この活動に関わっていて、普段何気なく口にする『子どもを支援する』という言葉に少し違和感を覚えるようになりました。それは、私たちが目指す社会は、「支える大人」「支えられる子ども」という一方通行の関係性だけで語ることができないからかもしれません。約8年の活動の中で、クーポンを利用して子どもが、大学入学後、ボランティア等を通じて後輩たちを支える頼もしい姿を見てきました。また、夢や目標に向かって、前に進む子どもたちの姿から、われわれ大人もパワーをもらっている部分があるのではないのでしょうか。私もそんな大人の一人です。子ども・大人含め、CFCの活動に関わるすべての人に、「支える側面」、「支えられる側面」があってよいと思います。そう考えると、『子どもを支援する』という言葉よりも『みんなで支え合う』という言葉の方が、しっくりきます。お互いに支え合える社会を皆さまとともに作っていくために、今後も全力を尽くしていきます。2017年度も引き続き、よろしく願いいたします。



共同代表  
**今井 悠介**  
(いまい・ゆうすけ)

1986年生まれ、兵庫県神戸市出身。小学2年生の時に阪神・淡路大震災を経験。関西学院大学在学中、特定非営利活動法人ブレンヒューマンティーマニティーで不登校生徒支援に関わる。大学卒業後、株式会社公文教育研究会(KUMON)に入社。その後、同社を退職。当法人設立・代表理事に就任。

## CFCが大切にしたい カタチ

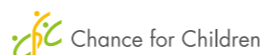
“支援が子どもたちに届くまで”。2016年度、本レポートに新たに追加したページです。たったの2ページですが、この流れの中に実に多様な方々が集約されています。どの1点も欠かすことができず、1点1点が有機的につながることにより、CFCは形づくられていると感じます。2016年度、CFCはビジョン・ミッションに基づくロジックモデルを作成しました。また、2017年度はビジョンまでの道筋を示すロードマップの作成を進めています。これらの議論の中では、いつも「CFCの価値は何か?その強みは何か?」という論点に行き着きます。そして、更に議論を重ねていくと、CFCはひとつの仕組みにすぎない、最も大きな価値は、ここに集う多くのサポーター、教育事業者、ボランティア、専門家、そして子どもたちの存在自体なのだ気付かされます。教育格差を生む構造を変え、社会をつくる挑戦を行うCFCにとって、多様な人たちがつくる支援の輪は、最も大切にしたいカタチです。次年度は、ここに更に多くの仲間が集えるように、より一層邁進してまいります。ぜひ、今後もCFCと一緒に歩んでいただければ幸いです。



共同代表  
**奥野 慧**  
(おくの・さとし)

1985年生まれ、新潟県南魚沼市出身。19歳の時に新潟県中越地震を経験。関西学院大学在学中、特定非営利活動法人ブレンヒューマンティーマニティーで国際交流事業に関わる。2011年3月から東日本大震災緊急支援活動に参画。その後、当法人設立・代表理事に就任。

## チャンス・フォー・チルドレン(CFC)沿革



阪神・淡路大震災を原点到、被災した子どもたちの教育支援を行ってきた特定非営利活動法人ブレンヒューマンティーマニティーのプロジェクトとして2009年に発足。その後、2011年に発生した東日本大震災を契機に同団体から独立し、一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン設立。2014年、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人となる。

### これまでの歩み

2009年	ブレンヒューマンティーマニティーのプロジェクトとして、関西で日本初の学校外教育バウチャー事業を開始。
2011年	一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン設立。東日本大震災被災地で学校外教育バウチャー事業を展開。
2012年	大阪府が学校外教育バウチャー事業(大阪府塾代助成事業)を政策導入。同事業の運営事業者として選定。
2014年	内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人となる。
2016年	熊本地震を受けて、大規模災害被災地での学校外教育バウチャー制度を創設。

## Contents

- P.01 目次
- P.02 共同代表からのメッセージ
- P.03 **特集1** 心の中の未来像
- P.07 子どもの声と活動実績
  - P.07 CFC東日本
  - P.08 CFC西日本
  - P.09 CFC熊本
  - P.10 プラザ ー・シスター制度  
大阪府塾代助成事業の業務運営
- P.11 **特集2** 支援が子どもたちに届くまで  
2016年度の出来事
- P.13 ご支援いただいた皆さま
- P.15 財務・会計報告
- P.17 CFCのビジョンと今後の展開
- P.18 スタッフ紹介

## Cover Photo



©Rintaro Kume

CFCクーポンを持って、こちらを見つめているのは、岩手県に住むクーポン利用者の一人、中学3年生の千葉日翔(にしか)くん。将来の夢は、人の命を救う救急救命士。バスケットボール部でエースとして活躍するかたわら、高校受験に向けて、家庭教師と学習塾でクーポンを利用し、受験勉強に励んでいます。

取材・編集／辻和洋  
写真／久米凜太郎

# 心の中の未来像

チャンス・フォー・チルドレン  
2016年度年次報告書

## 特集1

東日本大震災から6年が経った。  
大きな爪痕を残した大災害に、今、人々は何を思うだろう。  
被災した街は、少しずつ復興を遂げようとしている。  
しかし、日常を取り戻しつつあると見えるものにも、  
やりきれない悲しみ、それと向き合う勇気が背景にある。  
こうした現実を抱えながら生きる人々を  
CFCは支え続けたい。  
苦勞と葛藤のなかで、前を見据え、  
希望の未来を思い描く子どもの姿を紹介する。



クーポン利用者

# 千葉日翔君

中学3年生(14)

震災の記憶。  
テレビで観た故郷の光景。

夕方、バスケットボールを突く音がする。岩手県大槌町の中学3年、千葉日翔(にしか)君(14)は、学校から帰ると体操服のジャージのまま、自宅前に備え付けたゴールネットをめぐってシュート練習をする。「ナイスシュート」。母・理子(あやこ)さん(45)が軒先から声をかける。日が沈み始めると、自宅に戻り、机に向かつて、勉強を始める。何気ない日常の風景。ここまで来るのに、どれくらい時が経っただろう――。

小学2年の頃、東日本大震災が街を襲った。「旅行がてら日翔も行ってきたら」と祖父・新市さんに促され、11歳離れた兄の通う大学のある千葉県へ母と兄と一緒に車で向かっている途中だった。栃木県内の高速道路で、「車のタイヤがはずれた」と思うほどの大きな揺れを感じた。3人は慌てて、パーキングエリアで車から降り、休憩室のテレビを眺めた。すると、地元の話が津波に飲まれていた映像が流れていた。自宅にいた家族と連絡がつかず、不安が募った。

約3年半、親子は別々に暮らした。母が千葉県から大槌町の実家に帰るのは、数ヶ月に一度。母が千葉県へ戻る時は、自宅前でいつも、目に浮かぶ涙がこぼれのように歯を食いしばって見送った。

小学6年になる直前に、母が大槌町に戻ってきて再び一緒に暮らし始めた。しかし、本音が言い合える関係にすぐにはならなかった。母の苦勞、震災の被害、祖父のこと……。震災を機に起こったすべてのことが、無意識に「良い子」でいるように振る舞わせた。

生活が少し落ち着き始めた半年後、母と自宅近くの堤防を歩いていた。ふと「俺、好きなことやってもいいの」とこぼ

翌日の未明、千葉県内の兄の家に到着した。「ダメって何よ!ダメって……」。しばらくすると、母が電話越しに叫ぶ声があった。祖父が津波に流され、行方不明になった。「じいちゃんが……」。

大きな支えだった祖父。  
家庭を支えるための母の決意。

日翔君が生まれて間もなく母が離婚。父の記憶はない。祖父は、日翔君にとって父のような存在だった。設計事務所を経営しながら、空手道場を開き、近所の子どもたちや大人約100人に空手を教えていた。幼い頃は、黒帯をおんぶひもにして、よく背負ってもらった。日翔君も小学生になると空手を始めた。「イチツ、ニツ、サンツ」。基本の動作を学ぶ。



祖父・新市さんの写真(左)。津波で思い出の品が流され、知人から譲り受けたものが多い。

した。母は「好きなことじゃないと続かないしね」と笑顔で返した。友達と一緒にやりたいと思っていたバスケットボール。空手も好きだけれど、仲のよい友達と一緒にのチームに入ってプレーする喜びを味わいたかった。入団したバスケットボールチームを通じて徐々に親子で本音を言い合える仲に深まっていた。

中学に入ると、バスケットボール部に入部し、1年の夏からレギュラーになった。相手のドリブルについていけない強い足腰は空手で培った。3年になった今はチームのエース。強いチームと対戦し苦しい試合をしたときも、自然と「最後まで諦めるな」とチームメイトに声をかける自分がいた。

学校から帰ると、家の前にあるバスケットゴールに向かってシュート練習を繰り返す。



組み手の練習になると、「最後まで諦めるな」と、祖父の厳しい声が飛んだ。

家に帰ると、祖父の表情は穏やかになった。休日には、毎週近くの海まで釣りに連れて行ってくれた。「ほら、もつと遠くに投げろ」。フグやハゼを釣った。食卓では、祖父の隣に日翔君が座り、祖父が煮魚の骨をとって食べさせてくれた。風呂、犬の散歩、キャッチボール……。何でも一緒。厳しくも温かい祖父が、日翔君にとって「理想の大人」だった――。

震災から1週間後、母と千葉県から大槌町の自宅へ向かった。大槌町に入るためのトンネルを抜けた瞬間、言葉を失った。建物がなく、一面がれきの山。見慣れた町の景色は変わり果てていた。「僕の街はこんなところじゃない」。初め

CFCの支援が決定。  
夢のために勉強に励む。

将来の夢は人の命を救う救急救命士になること。消防士になった兄の姿と、いつも事務所の前の横断歩道で、歩行者が安全に通行できるように誘導し、人助けをしていた祖父の姿を見てそう思った。誰かの喜ぶ顔を見ている時の温かい祖父の笑顔が好きだった。夢を叶えるために大学進学を見据え、進学校の高校を目指す。母の手一つで家庭を支えるのは、経済的に苦しく、少しでも夢に近づけるよう、CFCの支援に申し込んだ。

2度申し込んだが、選ばれず、3度目の申請。通知書が自宅に届いた時、封筒の厚みが違った。「日翔、いつもと雰囲気違うよ」と母が郵便受けから持ってきた。思わず「おお」と声を上げた。参考書も繰り返し使ったポロポロになっていたが、これでもっと勉強ができると思った。

今はクーポンで、隣の塾に通うことができるようになった。多くの同級生たちが進学校を目指す塾の雰囲気、刺激を受けて自宅での学習時間も増え、勉強に意欲的になった。「これから受験だし、支援してくださっている人の気持ちに応えるためにも、精一杯、頑張らな」とと気を引き締める。部活との両立の日々が続く。



愛犬と触れ合う。今は何気なく過ごす時間が持てるようになった。

祖父が残してくれたもの。  
理想の姿を追いかけて。

不意に家族や近所の人から「じいちゃん、どこにいるんだろうね」と聞かれることがある。「ん、ハワイじゃねえの」と答える。あの日、祖父は、津波が押し寄せるなか、渋滞する車の窓をノックして、「走って逃げろ」と声をかけて回っていたという。それ以降の消息の手がかりはない。家ごと津波で流され、祖父の思い出の品は何も残っていない。でも、「自分の中にじいちゃんが教えてくれたものがたくさんある」。

あれから6年。「どこかで生きているんじゃないかと思う時がある」。厳しくも温かかった祖父の姿を思い浮かべながら、理想の大人に近づけるように日々を過ごしている。



【上】受験を控え、時間を惜しんで机に向かう日翔君。【下】自宅のコルクボードに飾っている激励のメッセージ。バスケットボール部の顧問の先生やチームメイトからの信頼も厚い。

2016年度の活動内容

## CFC西日本

関西の貧困世帯の子どもたちの教育機会を保障することで、貧困の世代間連鎖を断ち切ります。

### 子どもの声

将来の夢は、未来の家を作る建築士。  
そして、祖母との約束を果たしたい。

兵庫県神戸市 / 高校3年生 女子

私の将来の夢は、建築士になることです。小さいころから牛乳パックを使って家の模型を作ることが好きで、何時間も熱中していました。今でもよく、家の設計図を書いています。初めは、自分が住みたいと思う理想の家を考えていましたが、災害で木造式の家が劣化して崩れ落ちている光景をテレビで見て、「安全で安心して暮らせる未来の家」を作りたいという気持ちに変わりました。また、私は小学生の頃に祖母と「家族みんなで大きな家に住む」という約束をしましたが、まだそれを果たせていません。私の祖母は、阪神・淡路大震災以降、復興住宅に住んでいます。73歳でホームヘルパーとして一日中働いています。昔はいつも元気で明るかったのに、最近歳をとったせいか、家に行くと祖母はすぐ疲れて寝てしまいます。そんな祖母に、私が設計した家をプレゼントして、そこで家族みんなで暮らしたいです。

2016年度の活動内容

## CFC東日本

東日本大震災で被災した子どもたちの教育機会を保障し、その成長を支え、被災地の長期的復興に寄与することを目指しています。

### 子どもの声

大好きな音楽に関われる仕事に就いて、  
人の心に響く音楽を作りたい。

宮城県名取市 / 中学2年生 女子

私の将来の夢は、音楽に少しでも関係する仕事に就くことです。現在は、クーポンをピアノ教室に使わせていただいています。私にとってピアノは嫌な事を忘れることが出来たり、気分転換になったりと、生活に欠かせないことだし、夢中になれることです。音楽には様々なジャンルがあります。ポップス、ロック、クラシック、ジャズなどは、曲調は全く違うとはいえ、人の心に強く響くものがあります。それは、作った人の魂がこもっているからだと思います。そんな魔法のような音楽を、作る側、伝える側、そういう職業のサポートなど、どんな形でもいいので、音楽に触れていきたいです。もし私が音楽を作る側の人間になったら、共感できて、憧れられる音楽を作りたいです。そして、心が辛くなっている人、またはハッピーな気分の人共感できるような音楽を作って、その時代の人の心を映し出す曲、と言われるように頑張りたいです。

CFC西日本概要(2016年度)	
対象者	生活保護受給世帯の小学生から高校生 (兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県のみ)
給付総額	4,400,000円
給付額/人	小学生 15万円 中1・中2/高1・高2 20万円 中3/高3 30万円
バウチャー利用期間	2016年4月1日～2017年3月31日
バウチャー利用者 募集期間	2016年度 新規利用者 2016年2月1日～3月4日(3月29日利用者決定) 2017年度 継続利用者 2017年1月6日～1月27日(3月2日利用者決定)
バウチャー利用者数	21名(継続利用者7名、新規利用者14名) 学年別: 小学生 2名、中学生 3名、高校生 16名 地域別: 兵庫県 14名、大阪府 6名、京都府 1名
バウチャー利用率	84.2%(利用額/給付額)

審査基準
【新規利用者審査】 【第1次審査】 書類審査 ▶ エントリーシート、生活保護受給証明書を提出 審査基準 ▶ 自己向上、学習意欲、進学・就職意欲(中高生のみ)
【第2次審査】 面接審査 ▶ CFC職員、アドバイザー(外部有識者)による面接 審査基準 ▶ 自己向上、学習意欲、日常生活、進学・就職意欲(中高生のみ)
【継続利用者審査】 書類審査 ▶ エントリーシート、生活保護受給証明書を提出 審査基準 ▶ 生活保護受給状況、当該年度のバウチャー利用状況
進路実績(2016年度)
高校3年生の66.7%が大学等に進学(2名/3名) 大学等進学率 全国平均:54.7%*
高校3年生の100.0%が希望する進路に進んだ(3名/3名) アンケート回収率100.0%

※出典:文部科学省「平成28年度学校基本調査」

CFC東日本概要(2016年度)	
対象者	東日本大震災で被災した小学生から高校生 (全国に避難している児童生徒も含む)
給付総額	91,650,000円
給付額/人	小学生 15万円 中1・中2/高1・高2 20万円 中3/高3 30万円
バウチャー利用期間	2016年4月1日～2017年3月31日
バウチャー利用者 募集期間	2016年度 新規利用者 2016年4月5日～5月27日(6月17日利用者決定) 2017年度 継続利用者 2017年1月6日～1月27日(3月2日利用者決定)
バウチャー利用者数	434名(継続利用者232名、新規利用者202名) 学年別: 小学生 177名、中学生 136名、高校生 121名 地域別: 岩手県 43名、宮城県 334名、福島県 47名、 山形県 2名、新潟県 1名、栃木県 2名、 埼玉県 1名、神奈川県 1名、京都府 3名 住家被害: 全壊 187名、大規模半壊 61名、半壊 48名、 原発避難 44名 人的被害: 父死亡・行方不明 22名、母死亡・行方不明 3名、 その他親族死亡・行方不明 37名
バウチャー利用先	754教室・事業所(2017年3月31日時点)
バウチャー利用率	80.6%(利用額/給付額)

審査基準
【新規利用者審査】 書類審査 ▶ エントリーシート、公的所得証明書(又は生活保護受給証明書)、アンケート(中高生のみ)を提出 審査基準 ▶ 世帯収入・所得状況、学習・進学意欲、学年、学校外教育の利用状況
【継続利用者審査】 書類審査 ▶ エントリーシート、公的所得証明書(又は生活保護受給証明書)を提出 審査基準 ▶ 世帯収入・所得状況、当該年度のバウチャー利用状況
進路実績(2016年度)
中学3年生の100.0%が高校に進学(44名/44名) 高校進学率 全国平均:98.7%*
高校3年生の80.0%が大学等に進学(44名/55名) 大学等進学率 全国平均:54.7%*
中学3年生・高校3年生の83.8%が希望する進路に進んだ(83名/99名) アンケート回収率72.3%

※出典:文部科学省「平成28年度学校基本調査」

## ブラザー・シスター制度

大学生ボランティア(ブラザー・シスター)が定期的に子どもたちと面談を行い、バウチャー利用先の相談にのったり、進路・学習のアドバイスを行っています。

### スケジュール(2016年度)

大学生ボランティアは、専門家による対人援助、グリーフケア、進路・学習などに関する研修を受けて、子どもたちと関わるために必要な知識やスキルを学んでいます。

新入生  
養成研修

定期研修

スキルアップ  
研修

ブラザー・シスターとして活動する上で必須となるスキルや知識を学ぶ新入生向けの研修

子どもとの関わりで生じた問題点を専門家や他者と共有し、助言等を受ける研修

ブラザー・シスターの知識やスキル向上を目指して年に2回実施する研修

2016年	4月1日	子どもとの面談(以降、毎月1回実施)
	4月	定期研修(以降、隔月実施)
	5月29日・6月5日	新入生養成研修(7月から活動する47名を養成)
	7月10日	スキルアップ研修①
	9月18日・29日	フォローアップ研修(初回面談を終えた新入生のフォロー)
	11月12日・13日	マネジメント研修(コアメンバー向け)
2017年	2月25日	スキルアップ研修②

### 学生ボランティアの声

中学生の時に東日本大震災を経験し、全国から支援いただいたことがきっかけで、自分も何かしたいと思い、CFCで活動を始めました。子どもたちが「進みたい道が見つかった」「悩みがすっきりした」と言ってくれるのが嬉しくて、子どもたちが沢山の機会を持てるよう一緒に考えたいと思い、面談をしています。



東北学院大学 教養学部4年  
長谷川 光(はせがわ・ひかる)

### トレーナー(研修講師)の声

学生ボランティアの皆さんは、子どもたちの悩みや不安に耳を傾け、嬉しさや楽しさも共有しながら、とても丁寧に寄り添っています。子どもたちにとって、このような姿は、将来のよきロールモデルになると思いますし、学生自身にとっても大きな財産になることでしよう。今後も、活動を応援したいと思っています。



福島県立医科大学看護学部 講師  
佐藤 利憲(さとう・よしのり)

### 2016年度の活動内容

## CFC熊本

大規模災害被災地  
緊急子ども支援

2016年4月に発生した熊本地震を受け、大規模災害発生時に、被災した子どもたちに対し学校外教育バウチャー提供を行う制度を新たに創設しました。

### 子どもの声

先生が自分を励ましてくれたように、将来教師になって、子どもたちを元気にしたい。

熊本県上益城郡 / 中学3年生 男子

私の将来の夢は、教師になることです。なぜなら、教師という仕事は、子どもが夢や希望を持つのを手助けする仕事だからです。今回の地震の後、学校生活が始まり、みんなが心に深い傷をおっているとき、声をかけてくれたのは先生方でした。そんな姿を見て、ますます教師という職業につきたいと思いました。自分の心の中にある教師という仕事は、勉強を教えるだけでなく、時には子どもが夢や希望を持つ手助けをしたり、子どもたちを元気にすることができると思っています。今回の地震で車中泊などが続き、勉強できない時期がありました。今ようやく勉強する環境も整ってきて、クーポンで塾にも通えるようになりました。まだまだ勉強や好きなことを満足にできない同級生もいる中で、勉強できることはありがたいことだと思います。だから勉強できない人たちの分まで自分たちがしっかり勉強していきたいと思っています。

## 大阪市塾代助成事業の業務運営

2012年度から実施している「大阪市塾代助成事業(学校外教育バウチャー事業)」の業務運営を凸版印刷株式会社と共に実施しました。

### 大阪市塾代助成事業の概要(2016年度)

対象者	大阪市内に居住している中学生を養育している者で、養育者とその配偶者の合計所得が大阪市が定める所得要件に該当する者
交付対象者数	約31,000名
交付額	月額1万円
事業実施主体	大阪市
運営事業者	凸版印刷株式会社 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

### CFCスタッフの声

実施から5年目を迎えた2016年度からは、利用者の声を反映し、大阪市以外にある学習塾等や、インターネットを使ったサービスでもバウチャーが利用できるように選択肢を広げ、さらなる事業の拡充を図りました。今後も自治体や民間企業と協働し、より多くの子どもたちに教育機会を提供していきたいと考えています。



CFC関西事務局  
大阪市塾代助成事業担当  
川瀬 智子(かわせ・ともこ)

### CFC熊本概要(2016年度)

対象者	熊本地震で被災した中学校3年生、高校3年生
給付総額	13,000,000円
給付額/人	10万円
バウチャー利用期間	新規利用者(一次) 2016年8月1日~2017年3月31日 二次・三次利用決定者は、バウチャー提供後順次利用開始
バウチャー利用者募集期間	2016年度 新規利用者 2016年5月25日~7月29日 ※利用者決定:2016年7月20日(一次)、 2016年8月17日(二次)、2016年9月13日(三次)
バウチャー利用者数	130名 学年別: 中学3年生 90名、高校3年生 40名 地域別: 【熊本県】熊本市 66名、上益城郡 53名、阿蘇郡 5名、宇城市 4名、宇土市 1名、合志市 1名 住家被害: 全壊 47名、大規模半壊 27名、半壊 56名 人的被害: 主たる生計維持者の死亡 2名
バウチャー利用先	146教室・事業所(2017年3月31日時点)
バウチャー利用率	77.8%(利用額/給付額)

### 審査基準

#### 【新規利用者審査】

書類審査 ▶ エントリーシート、罹災証明書等の被災を証明する公的書類を提出  
審査基準 ▶ 被災状況(住家被害、人的被害)

### 進路実績(2016年度)

中学3年生の100.0%が高校に進学(80名/80名)

高校進学率 全国平均:98.7%\*

高校3年生の86.2%が大学等に進学(25名/29名)

大学等進学率 全国平均:54.7%\*

中学3年生・高校3年生の83.5%が希望する進路に進んだ(91名/109名)

アンケート回収率83.8%

※出典:文部科学省「平成28年度学校基本調査」

# 支援が 子どもたちに 届くまで 2016年度の出来事

クーポンのデザインも  
新しくなりました！



皆さまからの温かいご支援は、  
バウチャーとなり子どもたちのもとに届けられ、  
確実に教育の機会として活用されています。  
ご支援のおかげで、2016年度は過去最多となる  
585名(東日本434名、西日本21名、熊本130名)の  
子どもたちをサポートすることができました。  
皆さまからのご支援が子どもたちに届き、  
夢につながるチャンスに変化するまでの道をたどりながら、  
2016年度の主な出来事をご報告します。

## サポーターの募集

バウチャーの原資は、個人・企業の皆さまからのご寄付です。CFCでは、子どもたちの課題を解決するため、活動に賛同して下さるサポーターを募っています。

### サポーター募集プロジェクト



5月に熊本支援、10月に古本募金、12月に冬の教育募金、3月に東北支援プロジェクトを実施しました。1年間で、新しく299名の方がサポート会員として活動に参加していただきました。

### 街頭募金活動等イベント実施



CFC主催の活動説明会を15回開催しました。また、学生ボランティアが中心となり、宮城・東京・兵庫で街頭募金活動を6回実施しました。延べ122名が街頭で支援の必要性を訴えました。

### 企業・団体との連携



2016年度は107社もの企業・団体さまに、チャリティ商品の販売、ポイント募金、社内募金、チャリティコンサート、社内講演会等を通して、寄付や活動周知にご協力いただきました。

## 子どもの募集・バウチャー提供

寄付金をもとに、支援人数を決定し、希望する子どもたちにバウチャーを提供します。申込者数が定員を超えてしまう場合、慎重に選考を行い、利用者を決定します。

### 子どもの募集



自治体との連携による学校でのチラシ配布、他の支援機関からの紹介、メディアでの情報発信等により、周知を図りました。2016年度は合計1,664件もの応募が寄せられ、問合せが殺到しました。

### 審査・選考



審査基準は、毎年子どもの状況や支援の効果を踏まえて専門家と協議し、策定します。2016年度は、所得状況、アンケート内容(学習意欲)、学年等を元に審査を行いました(詳細はP.7~9)。

### バウチャーの提供



3月に仙台で「CFCのつどい」を開催し、継続利用者の子どもたちにバウチャーを贈呈しました。大学生ボランティアや協賛企業、サポート会員の方を含め、総勢185名がお越しくださいました。

## アフターフォロー・事業評価

バウチャー提供後、子どもたちが有効にバウチャーを活用できるようにサポートをしています。また、支援の効果を高めるための事業評価にも取り組んでいます。

### 大学生ボランティアによる面談



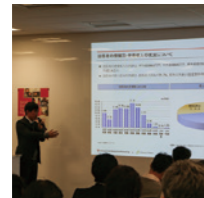
2016年度は、総勢113名の大学生ボランティア(ブラザー・シスター)が子どもたちとの定期的な電話や面談を通して、バウチャー利用や進路・学習に関する相談に応じました。

### 教育事業者との連携



2016年度末時点でバウチャーを利用できる教育事業者は189事業者(900教室・事業所)となりました。また、子どもたちのリクエストにより、新しく67事業者が利用先に登録してくださいました。

### 事業評価



三菱UFJリサーチ&コンサルティングさまにご協力いただき、6年分の膨大なアンケートの集計・データ整備を行いました。今後、事業成果や課題を分析し、事業改善に活用していきます。

### 専門家の声

非営利活動は善意を出発点としているが故に、客観的な視点を持ちにくいことがあります。しかしCFCは、自らの事業を見つめ、成果を検証し、一見不都合な結果でもそれをオープンにし、事業に活かそうとしています。そこにあるのは子どもの置かれた状況を良くしようという強い意志です。非営利団体のサービスは市場で取引されないものだからこそ、今後一層客観的な評価が求められます。私もそのお手伝いをしていきたいと思えます。



三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社  
主任研究員  
小林 庸平(こばやし・ようへい)

### 協力自治体の声

熊本地震では県内の学校の6割以上が被災し、子どもたちの生活に様々な影響が出ています。CFC、教育事業者、寄付者の皆様に心から御礼を申し上げます。地震を乗り越え夢の実現に挑戦する子どもたちを応援して下さい。今後とも未来を担う子どもたちの健やかな成長をめざし、Build Back Better(創造的復興)を掲げ、一丸となって取り組んで参ります。



熊本県教育長  
宮尾 千加子(みやお・ちかこ)

### 寄付者の声

CFCを知ったのは何気なく見ていたテレビ番組でした。支援の手が確実に子どもたちへ届く仕組みを紹介したものでしたが、「すごい事業モデルだ」と驚いたことを覚えています。その後、継続と発展を視野に入れたCFCの活動内容を知って感心するとともに、支援を受けた子どもたちがモチベーション高くがんばる姿に感動した私は、即決でサポート会員になりました。これからも子どもたちの応援を続けていこうと思います。



会社員  
田中 磨子(たなか・まこ)

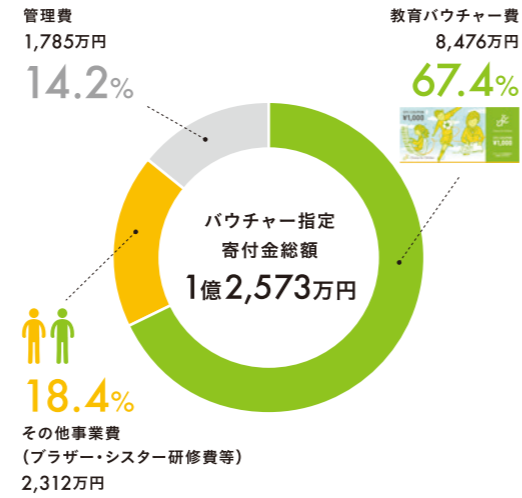




2016年度にいただいた指定寄付金等の使途（※運営費指定寄付金を除く）

2017年度は9,510万円分のバウチャーを456名の子どもへ提供

2016年度にいただいた指定寄付金等（学校外教育バウチャー指定寄付金・会費）1億2,573万円のうち、67.4%にあたる8,476万円を教育バウチャー費として使用します。このうち6,466万円を2017年度のバウチャー費に充当します（寄付者の指定により、2,010万円は、2016年度および2018年度のバウチャー費に充当）。2017年度は、上記6,466万円に、過年度に提供したバウチャーの未使用分や民間補助金のバウチャー費等を加え、総額9,510万円分の教育バウチャーを456名の子どもに提供する予定です。



学校外教育バウチャー指定寄付金・会費使途に関するお約束※1

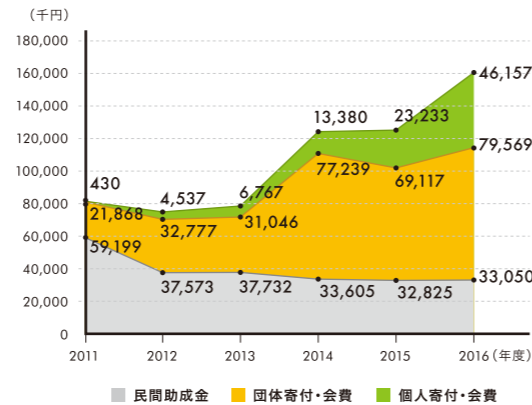
- 1 寄付金の85%以上※を子どもへの直接的な支援費として使用します  
※65%以上を教育バウチャー費、残り20%程度をその他事業費（プラザ・シスター活動費、調査研究費等）に充当。
- 2 寄付金の15%未満を法人の管理費※として使用します  
※子どもたちを間接的に支えるための費用。管理を行う職員の人件費、広報費等。

※1 大規模災害被災地バウチャー指定寄付金（CFC熊本指定寄付金）は、90%以上を事業費（80%以上を学校外教育バウチャー費）として、10%未満を法人管理費として使用します。

寄付金・会費・助成金収入の推移（※正会費、運営費指定寄付金、受託収益、雑収益を除く）

個人寄付金・会費が2,300万円増加（前年比約199%）

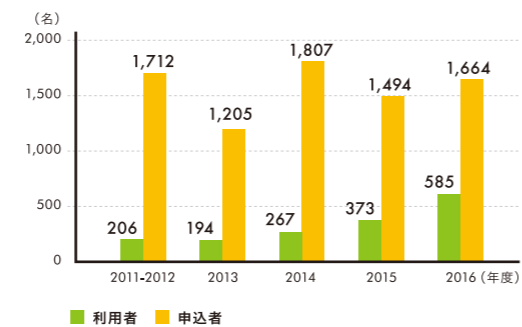
CFCは、財務の安定化を図るために、2014年度から継続して個人支援者の拡大のための施策（WEBサイトの改善や講演活動）に力を入れてきました。これまでの継続的な施策に加え、2016年度はサポーター募集プロジェクト等にも取り組んだ結果、個人寄付・会費が前年度よりも約2,300万円増加しました（前年比約199%）。引き続き、多くの個人の皆さまに支援の輪を広げてまいります。一方、企業・団体による寄付金・助成金は、2015年度と比べて微増していますが、ここには熊本地震の緊急支援による一時的な増加分が含まれるため、それらを勘案すると、微減している状況にあります。企業・団体の皆さまにも支援を継続いただけるよう呼びかけるとともに、社内講演会や社内募金、チャリティ商品販売等、企業の従業員や顧客参加型の連携活動を強化してまいります。



バウチャー利用者・申込者数の推移

2016年度も1,079名が落選。寄付金拡大や政策導入が課題

2016年度は、過去最多の585名にバウチャーを提供することができました。しかしながら、2016年度も定員を大幅に超える子どもからの申込みが寄せられ、資金不足により1,079名の子どもが落選しました（落選者は6年間で延べ6,257名）。これらを踏まえ、2017年度は過去の申込者の状況分析や被災地の状況から、より必要性が高い子どもに限定した応募基準に改定いたします（ただし、この改定によって応募基準から漏れる子どもたちも、本来的には支援が必要なことには変わりありません）。引き続き、一人でも多くの子どもたちに支援を届けられるよう、寄付金の拡大に取り組むとともに、一日も早く学校外教育バウチャー事業の政策導入を実現させるべく、政府や自治体に提言を行ってまいります。



正味財産増減計算書の要旨（2016年4月1日から2017年3月31日まで）

科目	2016年度実績	2015年度実績	昨対比(%)
1 受託事業収益	39,978,135	42,861,187	93.3%
2 受取入金・会費	65,000	65,000	100.0%
3 受取寄付金（一般寄付金）	0	1,812,904	-
4 受取寄付金等振替額（指定正味財産からの振替額）	144,032,702	109,271,576	131.8%
5 受取補助金	0	2,967,970	-
6 雑収益	289,802	2,031,365	14.3%
<b>収益計</b>	<b>184,365,639</b>	<b>159,010,002</b>	<b>115.9%</b>
1 事業費	166,624,475	142,090,779	117.3%
人件費（自主事業・受託事業）	47,334,657	38,488,976	123.0%
バウチャー利用額（自主事業）	87,650,160	64,278,109	136.4%
その他事業費（自主事業）	16,454,523	20,418,464	80.6%
その他事業費（受託事業）	15,185,135	18,905,230	80.3%
2 管理費	17,741,164	16,907,223	104.9%
人件費	4,018,809	5,472,524	73.4%
その他費用（地代家賃・事務費等）	13,722,355	11,434,699	120.0%
<b>費用計</b>	<b>184,365,639</b>	<b>158,998,002</b>	<b>116.0%</b>
<b>当期経常外増減額</b>	<b>▲ 197,016</b>	<b>▲ 12,000</b>	<b>1,641.8%</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>▲ 197,016</b>	<b>0</b>	<b>-</b>
一般正味財産期首残高	6,577,037	6,577,037	100.0%
一般正味財産期末残高	6,380,021	6,577,037	97.0%
1 受取賛助会費（バウチャー事業指定）	21,188,000	12,736,174	166.4%
2 受取寄付金（バウチャー事業指定・運営費指定）	106,338,117	79,153,304	134.3%
3 受取補助金等（バウチャー事業指定）	33,050,000	29,856,546	110.7%
4 一般正味財産への振替額	▲ 144,032,702	▲ 109,271,576	131.8%
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>16,543,415</b>	<b>12,474,448</b>	<b>132.6%</b>
指定正味財産期首残高	125,475,303	113,000,855	111.0%
指定正味財産期末残高	142,018,718	125,475,303	113.2%
<b>正味財産期末残高</b>	<b>148,398,739</b>	<b>132,052,340</b>	<b>112.4%</b>

貸借対照表の要旨（2017年3月31日現在）

科目	金額	科目	金額
1 流動資産	18,913,188	1 流動負債	16,404,279
現金及び普通預金	14,781,369	未払金等	16,404,279
未収入金等	4,131,819	<b>負債の部合計</b>	<b>16,404,279</b>
2 固定資産※	145,889,830	1 一般正味財産	6,380,021
特定資産（教育バウチャー事業等実地積立資産）	142,018,718	（うち当期一般正味財産増減額）	▲ 197,016
公益目的保有財産	3,575,496	2 指定正味財産	142,018,718
その他固定資産	295,616	（うち当期指定正味財産増減額）	16,543,415
<b>資産の部合計</b>	<b>164,803,018</b>	<b>正味財産の部合計</b>	<b>148,398,739</b>
		<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>164,803,018</b>

※有形固定資産の減価償却累計額は1,395,618円です。

貸借対照表、正味財産増減計算書（損益計算書）及び財産目録は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。

監事 津久井進 藤井美明

2016年度は多大なご支援をいただき、  
誠にありがとうございました。



役員

- |                                     |  |                                      |
|-------------------------------------|--|--------------------------------------|
| <br>代表理事<br>当法人専従                   | <br>代表理事<br>当法人専従                      | <br>理事<br>特定非営利活動法人 夢職人 理事長          |
| <br>理事<br>IHQ[人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 | <br>理事<br>慶應義塾大学総合政策学部 准教授             | <br>理事<br>特定非営利活動法人 プレインヒューマニティー 理事長 |
| <br>理事<br>長野県 参与 / 尼崎市 顧問           | <br>監事<br>弁護士 / 弁護士法人 芦屋西宮市民法律事務所 代表社員 | <br>監事<br>公認会計士                      |

職員

- |                              |                 |                       |                 |
|------------------------------|-----------------|-----------------------|-----------------|
| <br>CFC東日本事業担当<br>CFC西日本事業担当 | <br>CFC東日本事業担当  | <br>CFC東日本事業担当 / 広報担当 | <br>大阪市塾代助成事業担当 |
| <br>大阪市塾代助成事業担当              | <br>大阪市塾代助成事業担当 | <br>大阪市塾代助成事業担当       |                 |

アドバイザー

- |   |  |
|---|--|
| <b>小林 庸平</b> 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員 | <b>吉野 一徳</b> 熊本大学教育学部 准教授              |
| <b>駒崎 弘樹</b> 認定特定非営利活動法人 フローレンス 代表理事      | <b>長尾 文雄</b> 特定非営利活動法人 プレインヒューマニティー 理事 |
| <b>高橋 聡美</b> 防衛医科大学校医学教育部 教授              | <b>半羽 利美佳</b> 武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科 准教授  |
| <b>武井 敦史</b> 静岡大学大学院教育学研究科 教授             | <b>水谷 衣里</b> 株式会社 風とつばさ 代表取締役          |
| <b>田村 太郎</b> 一般財団法人 ダイバーシティ研究所 代表理事       | <b>村田 治</b> 関西学院大学長 / あしなが育英会 副会長      |
| <b>出村 和子</b> 社会福祉法人 仙台いのちの電話 理事           | <b>門馬 優</b> 特定非営利活動法人 TEDIC 代表理事       |

トレーナー

- |   |   |
|---|---|
| <b>阿部 裕二</b> 東北福祉大学総合福祉学部福祉行政学科 教授      | <b>佐藤 利憲</b> 福島県立医科大学看護学部 講師                |
| <b>小林 純子</b> 特定非営利活動法人 チャイルドラインみやぎ 代表理事 | <b>西田 正弘</b> 特定非営利活動法人 子どもグリーンサポートステーション 代表 |
| <b>佐藤 宏平</b> 山形大学地域教育文化学部 准教授           | <b>松浦 智博</b> 一般社団法人 ワカツク/キャリア教育コーディネーター     |

VISION / ビジョン 子どもたちが家庭の環境にかかわらず、将来自立することができる社会

MISSION / ミッション 経済格差による放課後の教育格差を解消する

ビジョン・ミッションに基づいた「ロジックモデル」の作成

- ▶ 2016年度、CFCは、ボランティア・職員・経営陣と外部有識者が約半年間にわたり議論を重ね、ビジョン・ミッションを達成するための、ロジックモデルを作成しました。ロジックモデルとは、団体が最終的に目指す社会の変化に向けた道筋を論理的に示すもので、事業の設計図とも言われます。今後、このロジックモデルが、現場スタッフや経営者、支援者が一つの目標に向かって取り組むための基盤となります。
- ▶ CFCが目指す長期的な成果(=アウトカム)は、子どもたちの自立です。そのために、子どもの高等教育機関への進学又は正規就労といった中期的な成果を目指します。よって、初期の段階では学力や非認知能力の向上、社会関係資本の蓄積等、自立のために必要な力を養います。パウチャーの提供や大学生ボランティアによる面談の直接的な結果(=アウトプット)として、子どもの学習や体験機会、多様な人との出会いの機会を増加させることとなり、上記の成果につながるという仮説を立てています。

ロジックモデル(対象:経済的な困難を抱える子ども)



※社会関係資本(=ソーシャルキャピタル)とは、人との信頼関係や人間関係(社会的ネットワーク)等を指します。  
※上記ロジックモデルは、今後効果検証等を行いながら、適宜改定してまいります。

今後の展開

中長期戦略(ロードマップ)の再検討

ビジョン・ミッション及びロジックモデルに基づいた、2021年・2031年までの中長期戦略(ロードマップ)を策定します。2021年・2031年は東日本大震災から10年・20年を迎える年でもあります。2017年度中に、多様なステークホルダーとの議論を重ねたうえで、ロードマップを完成させ、支援者の皆さまにも共有させていただきます。

2017年度の取り組み

ロジックモデルに基づき、2017年度は、①子どもの非認知能力向上のための「文化・スポーツ・体験分野」のパウチャー利用先の拡大、②社会的インパクト評価による事業の効果検証を昨年に引き続き行います。この他にも、長期的に子どもたちを支える社会基盤づくりを視野に入れて、利用者・ボランティア・支援者コミュニティの形成(同窓会組織の設立、サポーターのつどいの開催等)に取り組みます。

## 報告書の制作にご協力いただいた皆さま



写真撮影

**安田 菜津紀さん** フォトジャーナリスト

studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。1987年神奈川県生まれ。



写真撮影

**久米 凜太郎さん** フォトグラファー鹿児島県生まれ。東京の広告制作会社で勤務後、現在は関西を中心に活動中。主にフードやポートレート撮影。自然なスタイルで写しとることを心がけている。  
www.kumerintaro.com、rintaro2514@gmail.com

取材・ライティング

**辻 和洋さん** ライター・エディター

元読売新聞記者。東日本大震災では、発生翌日から宮城県沿岸部を取材。現在は大学の研究所で、人材育成の教材を開発。kaz.0402@gmail.com



デザイン/制作ディレクション

**sai companyさん**

NPOを専門としたデザイン会社。多くの団体の、ブランディング、WEBサイト、パンフレット、年次報告書などを手掛ける。www.saicompany.jp

## 公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン



仙台事務局 宮城県仙台市青葉区本町1丁目13-24 錦ビル7階

東京事務局 東京都江東区亀戸6丁目54-5 小川ビル2階

関西事務局 兵庫県西宮市甲風園1丁目3-12 カミヤビル3階

TEL: 022-265-3461 (代表) FAX: 022-265-3471 (代表)

E-mail: info@cfc.or.jp **CFC 子ども** **検索** <http://cfc.or.jp/>

チャンス・フォー・チルドレン (Chance for Children)



@bh\_cfc

## パートナー



BrainHumanity

特定非営利活動法人ブレンヒューマニティー



ハタチ基金

公益社団法人ハタチ基金

## ご支援のお願い

CFCは、寄付によって活動しています。

未来を担う子どもたちを支えるため、温かいご支援をお願いいたします。

## ▶ 毎月の寄付で支援する「CFCサポート会員」

毎月1,000円からの継続的なご寄付で、子どもたちの成長を支える方法です。

## ▶ 今回のみ寄付する

ご都合の良いときに、任意の金額を寄付する方法です。

詳細・お申込みは専用のWEBサイトからお手続きください。

**CFC 寄付****検索**<http://cfc.or.jp/support/>